

令和8年度 事業計画

学校法人 津曲学園

目 次

津曲学園	1
鹿児島国際大学	2
鹿児島高等学校	1 2
鹿児島修学館中学校・高等学校	1 6
鹿児島幼稚園	1 9

津曲学園

【基本目標】

1. 連携強化による魅力的な学園づくり

(基本的視点)

I ブランド力・情報発信力の向上

(基本的方向)

I 学園としてのブランド力・情報発信力の向上を図るため、各設置校と連携し、ハード・ソフトの両面から魅力ある教育環境づくりを進めるとともに、資産の有効活用も含め、新たな特色づくりを検討する。

(8年度の主な取組)

- ・鹿児島国際大学看護学部完成に向けた取組
- ・鹿児島国際大学大学院看護学研究科設置に向けた取組
- ・次期中期ビジョンの策定に向けた取組

2. 学園を支える人材の育成

(基本的視点)

I 人事・研修制度の充実と教育・研究活動の支援

(基本的方向)

I 人事・研修制度の充実と教育・研究活動の支援等を図ることにより、園児・生徒・学生の成長を支える教職員の資質向上を推進するとともに、コンプライアンス遵守の徹底、人を育てる職場環境づくりを進める。

(8年度の主な取組)

- ・人事評価制度の拡充
- ・研修制度の充実、教育・研究活動の支援
- ・カスタマーハラスメント防止への対応

3. 健全な財政基盤の確立

(基本的視点)

I 安定的な財源確保と経費節減・業務効率化

(基本的方向)

I 安定的な財源確保と経費の節減、業務の効率化を推進することにより、持続可能な学園づくりに必要な財政基盤の強化を図る。

(8年度の主な取組)

- ・寄付金募集への取組
- ・ICTを活用した学園一体となった業務効率化への取組
- ・各設置校の全事業、(入学者増に向けた各種事業、補助金活用など)による財政状況改善への取組

以上 津曲学園

鹿児島国際大学

【基本目標】

1. 建学の趣旨及び教育目的に基づいた人材の育成（教育課程・学習成果）

～国際的視野でものを考え、地域社会に貢献する人材～

（基本的視点）

- I 各学位課程にふさわしい教育課程及びプログラム展開
- II 効果的な教育方法の開発と質保証

（基本的方向）

- I 建学の趣旨及びポリシーを踏まえながら大学の基本理念をより具現化する教育プログラムを推進する。
- II 教育の質の保証及び向上に向けた「教育方法の開発」「学修成果の可視化」を実現する。

<全学的な取組>

I ①【各学部・学科・研究科の取組を含む】

カリキュラムのポリシーに基づく各学位課程にふさわしい授業科目の開設及び教育課程（免許資格課程を含む）の体系的な編成・実施検証

・「教育・学習」における自己点検・評価の客観性や有効性の向上

＜各学部・学科・研究科、教務課、実習支援課＞

・授業（講義）に対する総合満足度の向上

目標：4.5（5段階評価による）

＜研究教育開発センター＞

・授業アンケート実施・活用

＜研究教育開発センター＞

・教育能力向上、授業方法の改善につながる学生FDパートナーとのFD・SD
合同研修会の開催

＜研究教育開発センター＞

②IUKプログラム<学科基礎プログラム（地域人材育成プログラム、グローバル英語プログラム）、学部横断プログラム>の推進

・IUKプログラム（グローバル英語プログラム、学部横断プログラム）に対する学生の認知度向上及びモデル学生の発掘

＜各学部・学科、教務課＞

・「地域人材育成プロジェクト」の始動

＜産学官地域連携センター＞

・数理・データサイエンス・AI教育プログラムの充実

＜企画・国際課、研究教育開発センター＞

・国内インターンシップにおける地元企業への参加

目標：参加率93.0%（参加者数240人）

＜就職キャリアセンター＞

・海外インターンシップ参加

目標：参加者数25人

＜学生課＞

<その他学部・学科・研究科における主な取組>

・新カリキュラムによる教育課程の成果と課題の検証

＜経済学科＞

・アクティブラーニング型授業の強化

＜経営学科＞

- ・実習をはじめとする体験型学習の充実と拡充 <社会福祉学科>
- ・令和8年度カリキュラムへのスムーズな移行 <児童学科>
- ・授業に対する総合満足度向上のためのFD活動の活性化 <国際文化学科>
- ・教育の質向上に向けたアンケートの実施及び教員研修会の実施 <音楽学科>
- ・カリキュラム・ポリシーに基づき編成した授業科目及び教育課程の有効性の検討 <看護学科>
- ・「大学院授業アンケート」結果に基づいた授業改善 <経済学研究科>
- ・オンラインの活用や授業日時の調整等、柔軟な対応による受講機会の確保と満足度の向上 <福祉社会学研究科>
- ・新カリキュラム実施のための、カリキュラム・ポリシー及び履修系統図(カリキュラム・マップ)等を用いた教育課程の体系的な編成の検討 <国際文化研究科>

<全学的な取組>

II ①DXを取入れた教育方法の研究・開発

- ・Teams、Moodle4、Zoomを活用している授業の公開 <研究教育開発センター>
- ・オンライン授業の推進 <情報処理センター(総務課)>

②FD・SD研修(教育・研究・社会連携等)の充実

- ・教育・研究、社会連携・研究支援及び学生FDパートナーと共催する研修会の年3回の開催、成果の把握及び周知 <研究教育開発センター(産学官地域連携センター)>

③学内LMS等を活用した学修成果の可視化及びディプロマポリシー達成度の向上

- ・DP達成状況の向上、経年変化把握のために集計・分析した自己評価報告書の作成及び提供 <研究教育開発センター>
- ・「履修カルテ」マニュアルの改訂及び運用の点検 <実習支援課>
- ・「履修カルテ」利用の定着及び活用促進 <実習支援課>
- ・Teams、Moodle4普及のための使用方法の周知 <研究教育開発センター>

<その他学部・学科・研究科における主な取組>

- ・新カリキュラムにおける授業の到達目標の達成度の把握及び評価 <経済学科>
- ・LiveCampus UやMoodle等を利用した学習成果の可視化及び授業の到達目標の達成状況確認の強化 <経営学科>
- ・実習におけるオンライン教育システムの円滑な導入 <社会福祉学科>
- ・実習における諸記録の電子化の推進 <児童学科>
- ・オンライン授業の研究及び学内LMSの活用の推進 <国際文化学科>

- ・ルーブリックを用いた評価方法の検討及び情報共有 <音楽学科>
- ・学生のディプロマポリシー達成度評価尺度の結果を活用したディプロマポリシーに示された能力獲得の支援 <看護学科>
- ・LiveCampus Uを活用した大学院教育の活性化 <経済学研究科>
- ・遠隔地在住者の学修機会拡大に向けたオンライン授業の推進 <福祉社会学研究科>
- ・デジタル技術を活用したオンライン授業の検討及びDX化の推進 <国際文化研究科>

2. 学生の受け入れ

(基本的視点)

- I 志願倍率の向上
- II ニーズに応じた広報活動の強化

(基本的方向)

- I 多様な学生のさらなる受け入れのために、入学試験の見直し及び学生受け入れ環境を充実する。
- II 大学の魅力発信及び卒業生の進路等に関する特色を伝える広報活動を強化する。

<全学的な取組>

I ①【各学部・学科・研究科の取組を含む】

各学部・学科・研究科の取組の推進による入学定員及び収容定員の確保

- ・志願倍率向上に向けた検証及び取組の実施
目標：志願倍率 2.5 倍（志願者数 1,800 人） <入試・広報課>
- ・多様な入学者選抜の実施による入学者の確保
目標：入学定員充足率 100%（入学者数 755 人） <入試・広報課>
- ・収容定員充足率是正に向けた検証及び取組の実施
目標：収容定員充足率 100%（在籍者数 3,020 人） <入試・広報課>
- ・夏季・春季オープンキャンパスの実施
目標：オープンキャンパス参加者数 1,750 人 <入試・広報課>
- ②高大連携接続型の選抜方法等の検討
 - ・高大連携行事参加生徒及び高校への入試制度の周知徹底及び新規入試制度の検討 <入試・広報課>
- ③外国人留学生の受入継続・促進
 - ・現地入試の実施
目標：現地入試受験者数（オンライン含む）20 人 <入試・広報課>
 - ・海外オープンキャンパス（大連等）の実施
目標：全学生数に占める留学生数の割合 2.5% <企画・国際課（学生課）>

<その他学部・学科・研究科における主な取組>

- ・進学説明会等でのオープンキャンパス参加誘導及びオープンキャンパス学科企画の充実 <経済学科>
- ・オープンキャンパス等における受験案内の強化 <経営学科>
- ・大学生体験等の実施による高校との連携推進 <社会福祉学科>
- ・年内入試志向への対応強化及びオープンキャンパスにおける「研究部会フェスタ」等の充実 <児童学科>
- ・オープンキャンパスにおける魅力ある学科企画の実施 <国際文化学科>
- ・高校訪問、オープンキャンパス等におけるカリキュラムの特色・魅力の発信 <看護学科>
- ・学部学生に対する大学院入試説明会開催と開催パンフレット等の配布 <経済学研究科>
- ・広報活動対象の継続と新規開拓及び市民及び学部生向け講演会の開催 <福祉社会学研究科>
- ・大学院進学ガイダンス参加者の確保及び海外の現地入試説明会実施 <国際文化研究科>

<全学的な取組>

II ①教職協働による高校訪問、進学相談会等の取組強化

- ・教員・職員による高校訪問
目標：県内訪問高校数（延べ数）200校
- ・市内・地方進学校の受験動向に応じた高校訪問の実施
- ・活躍した学生の母校をターゲットとした高校とのより緊密な関係の構築
目標：10校訪問 <入試・広報課>

②鹿児島県外に対する効果的な宣伝・広報の推進及び県外駐在員体制の再構築

- ・県外駐在員の活動効果検証及び県外高校訪問・進学説明会参加
目標：200校程度 <入試・広報課>

③大学の魅力及び特色の情報発信の強化

- ・ホームページを中心とした多彩で魅力ある学生生活や特徴的なイベント等の情報発信
目標：ホームページ総アクセス数 1,500,000PV数 <入試・広報課>

<その他学部・学科・研究科における主な取組>

- ・高校訪問、進学相談会、出張講義の継続強化 <経済学科>
- ・学科イベント（経営やDX等を学ぶ合同ゼミ）の活動成果の情報発信 <経営学科>
- ・ホームページをはじめとした各種媒体を通じた学生の学びの姿や活動状況の情報発信 <社会福祉学科>
- ・SNSや広報誌等を活用した学科の取組みの発信 <児童学科>

- ・情報媒体の多様化を含めた充実 <国際文化学科>
- ・ホームページ・SNS を活用したターゲット特化型の情報発信及び学生主体による広報活動の推進 <看護学科>

3. 学生支援体制の整備（学生支援）

（基本的視点）

学生支援に関する基本方針に基づく、Ⅰ 修学支援、Ⅱ 生活支援、Ⅲ 進路支援

（基本的方向）

- Ⅰ 修学支援 学生の修学に関する適切な支援を実施する。
- Ⅱ 生活支援 学生の生活に関する適切な支援の実施と課外活動を充実させるための支援を実施する。
- Ⅲ 進路支援 学生の目標実現に向けた入学時からのキャリア形成の支援、就職意識の向上、チャレンジ精神を育むことに努めるとともに、本学同窓会等との連携を強化する。

<全学的な取組>

Ⅰ ①【各学部・学科・研究科の取組を含む】

各学科長及び学生課、学生相談室並びにキャンパスソーシャルワーカーとの連携による退学率の減少

- ・出席不振の学生に対する面談及びキャンパスソーシャルワーカーによる相談週間の実施、退学率の検証

目標：全学年の退学率 2.9%（退学者数 83 人以内） <学生課>

②基礎教育（リメディアル教育）による学修支援体制の強化

- ・入学前課題（IUK チャレンジ基礎コース）及び授業外課題（IUK チャレンジ応用コース）の受講促進

目標：入学者（1年生）の IUK チャレンジ受講率 90.0%

<研究教育開発センター、就職キャリアセンター>

③留学生に対する日本語学習環境の充実

- ・日本語特別プログラム及び日本語教員養成課程との連携講座実施

目標：講座参加者 20 人

<学生課>

④奨学金説明会等の創意工夫による給付奨学金採用率の向上（高等教育の修学支援新制度）

- ・奨学生説明会の実施及び採用状況の確認

目標：給付奨学金採用率 93.0%

<学生課>

<その他学部・学科・研究科における主な取組>

- ・出席不振者の状況把握及び学習支援対象学生面談の記録提出の徹底

<経済学科>

- ・学習支援対象学生への面談及び面談記録提出の徹底

<経営学科>

- ・配慮の必要な学生の情報共有及び意見交換

<社会福祉学科>

- ・学習支援対象学生の情報共有と必要に応じたチーム支援

<児童学科>

＜その他学部・学科・研究科における主な取組＞

- ・進路指導、進級及び卒業要件の面談指導の強化 ＜経済学科＞
- ・資格教育センター及び大学院との連携による税理士を目指す学生の育成 ＜経営学科＞
- ・社会福祉士講座等の資格講座の充実 ＜社会福祉学科＞
- ・教員採用試験合格率及び教育・福祉職の就職率の向上 ＜児童学科＞
- ・ゼミ単位での就職活動及び卒業に向けてのサポートの充実 ＜国際文化学科＞
- ・就職率及び学校教員採用数向上に向けたきめ細かな対応 ＜音楽学科＞
- ・看護師国家試験・保健師国家試験対策の強化及び就職活動支援による県内就職率の向上 ＜看護学科＞
- ・研究指導教員による学位取得及び標準年限での修了支援 ＜経済学研究科＞
- ・ニーズに即した研究テーマ指導と柔軟な学習時間の保障 ＜福祉社会学研究科＞
- ・進路支援及び修了時満足度の向上 ＜国際文化研究科＞

4. 学問の動向や社会的要請、大学を取り巻く環境に対応した組織体制の構築

(教育研究組織、教員・教員組織)

(基本的視点)

- I 看護学部の設置構想の実現
- II 時代や地域のニーズに適した学部学科の再編の検討と学部附属組織の活動を通じた学内外における連携・貢献の推進

(基本的方向)

- I 看護学部の設置構想を推進する。
- II 学内外の情勢に即した学部学科の組織体制を構築するとともに、学部附属組織の活動を充実させ、学内との連携及び地域への貢献を実現する。

＜全学的な取組＞

- I ①地域とのつながりを大切にした教育の実施
 - ・地域探索フィールドワークの実施、地域を支えている方々を招いた成果報告会及び意見交換の実施
 - ・暮らし探索フィールドワークの実施、地域で暮らす高齢者との交流
 - ・学びの成果と課題の明確化の実施
 - ・授業に対する総合満足度の向上

目標：4.5（5段階評価による）＜看護学部、伊敷キャンパス事務部＞
- ②地域を元気にする看護の探究
 - ・実習施設及び医療機関と連携した安全で効果的な実習の実施
 - ・実習指導体制の整備及び臨地実習の実施
 - ・実習実施体制の整備 ＜看護学部、伊敷キャンパス事務部＞

<全学的な取組>

- II ①基本構想を実現するための学部・学科の再編の検討
 - ・必要に応じた検討・協議 <企画・国際課>
- ②児童相談センター及び博物館実習施設の活動の推進
 - ・児童相談センターの事業内容や相談方法の見直しに基づいた相談体制の整備・充実 <児童相談センター>
 - ・地域の歴史や文化に関する調査及びイベントの開催検討 <実習支援課>

<その他学部・学科・研究科における主な取組>

- ・博物館実習施設における研究成果や社会貢献施設として役割の充実 <国際文化学科>

5. 教育研究環境の整備（教育研究等環境）

（基本的視点）

- I キャンパス（施設）環境整備
- II 学術研究活動の推進と研究成果の還元

（基本的方向）

- I 学生の学習及び教職員の教育研究活動を推進するために、安全性と快適性を考慮したキャンパスの（施設）環境整備を行う。
- II 本学の研究成果を地域社会に還元するために学術研究活動を支援する環境を充実させるとともに、科学研究費などの外部資金獲得を推進し、本学の研究成果を地域社会に還元する。

<全学的な取組>

- I ①坂之上キャンパス及び伊敷キャンパスのネットワークセキュリティ環境整備
 - ・看護学研究科（令和9年4月開設予定〔設置認可申請中〕）の環境整備 <情報処理センター>
- ②バリアフリーへの対応や利用者の快適性に配慮した環境整備
 - ・定期的な学内施設・設備の点検、改修 <総務課>
- ③図書館電子資料の充実及び利用環境の整備による利用者の増加
 - ・年間受入資料のうち電子書籍として1割程度を整備
目標：電子書籍利用件数 年間 300 件以上 <図書館>
 - ・EZproxy の利用促進
目標：情報検索ガイダンス実施 全 15 回
データベース利用説明会実施 全 6 回 <図書館>

<全学的な取組>

- II ①学内出版物及び紀要・教材等の電子化の推進
 - ・リポジトリ掲載コンテンツの増加
目標：掲載論文 年間 60 本 <図書館>

②外部資金獲得の支援の充実（科学研究費の採択、寄附講座の活用による寄附金の募集）

・ 科研費申請の支援及び申請件数把握 <研究教育開発センター>

<その他学部・学科・研究科における主な取組>

・ 学術研究の奨励及び講演会・研究会の開催による研究活動の促進

<社会福祉学科>

6. ローカル及びグローバルの視点で産学官連携及び海外諸機関等との連携強化

(社会連携・社会貢献)

(基本的視点)

I 大学の「知」の財産を活用し、フィールドワーク、高大連携、大学間連携、地方自治体・地域産業との連携強化及び学習多様化（生涯に渡る学習）に対応するリカレント教育の推進

II 地域特性を生かした国際化の推進

(基本的方向)

I 高校、地方自治体及び地域産業と連携して、持続可能な地域社会の発展や課題解決に向けた取組みを推進するとともに、各種講座及び研修を実施する。

II 鹿児島県の地域特性を生かした国際交流や東南アジア諸国等での新規拠点の開拓を検討するとともに、多様な国籍の学生が学び、留学できる“国際的な教育環境が整った大学”を実現する。

<全学的な取組>

I ①自治体等からの要請、SDGsを踏まえた地域課題解決のための教職員・学生によるフィールドワーク等教育活動の推進

・ 地域課題解決に向けたフィールドワーク等教育活動の推進、共有

目標：学生のフィールドワーク参加者数 1,326人以上

地域課題解決への貢献件数（提案・提言・実行）26件

地域フィールド演習報告会開催 <産学官地域連携センター>

②高大連携プログラムの実施・強化（中学校含む）

・ 高校生課題探究発表大会、中学生・高校生英語俳句コンテストの実施

目標：参加高校数（中学校含む）合計 85校

<産学官地域連携センター>

③大学間連携の推進

・ 大学地域コンソーシアム鹿児島事業の推進

・ 三大学間交流事業の推進

・ 京都女子大学サマープログラム参加留学生支援及び新たな大学間連携事業の検討 <産学官地域連携センター>

④生涯学習の推進

・ 生涯学習講座の実施

目標：生涯学習講座の実施件数 6件

<生涯学習センター>

⑤サテライトキャンパスにおける魅力ある講座の開講

- ・サテライトキャンパス講座の実施

目標：企業系講座の開講 1 講座 <産学官地域連携センター>

<その他学部・学科・研究科における主な取組>

- ・地域におけるフィールドワーク、地方自治体や各種法人・団体との共同研究及び活動推進 <社会福祉学科>

<全学的な取組>

II ①鹿児島県・鹿児島市をはじめとする国際交流団体との連携・交流

- ・留学生の県内国際交流活動への参加

目標：留学生の参加者数 50 人 <学生課>

②海外協定校との連携・交流促進

- ・海外協定校への留学生の派遣

目標：海外派遣留学生数 5 人以上 <学生課（企画・国際課）>

7. 安定した大学運営・財務基盤の確立（大学運営・財務運営・財政の安定化）

（基本的視点）

I 業務の効率化の推進及びガバナンス・コードに基づいた大学運営

II 安定した財務基盤の確立

（基本的方向）

I 業務の効率化を推進し、ガバナンス・コードに基づく大学組織を目的とした人財の育成に取り組む。

II 教育研究を永続的かつ安定して遂行するために必要な財務基盤を確立する。

<全学的な取組>

I ①オンライン会議、ペーパーレス会議の推進

- ・会議のペーパーレス又はオンライン実施率の向上 <総務課>

②学内業務の効率化

- ・RPA を活用した業務効率化の推進 <総務課>

③大学運営に関する各種研修の実施

- ・SD 研修会への参加の呼びかけ、参加状況の確認等

目標：SD 研修会への教職員の参加率 100% <総務課>

④ガバナンス・コードに基づいた大学運営

- ・私立大学ガバナンス・コードに基づいた遵守項目に対する取組の実施状況の点検・公表・報告 <企画・国際課>

<全学的な取組>

II ①目標とする財務比率の達成（令和 4 年度～令和 8 年度 財務 年度別計画）

- ・経常的な収支の安定の確立 <会計課、総務課>

以上 鹿児島国際大学

鹿児島高等学校

【基本目標】

1. 学校ブランド力の向上

～進路実現に向けた指導体制を強化し、社会全体への貢献度が高い学校を目指す～
(基本的視点)

- I 進路実現に向けた指導体制強化
- II 人材育成及び社会全体への貢献

(基本的方向)

- I 学科目標、進路目的に応じたバラエティ豊かな授業、生徒主体の探究活動、ICT教育の学習環境整備などの指導体制を強化する。
- II ボランティア活動や地域連携などを通して、社会貢献への意識が高い人材を育成し、社会で活躍する卒業生を輩出する。

(8年度の主な取組)

- I 普通科：独自の探究活動(未来探究)
英数科：体系的な学習プランの樹立による国公立大学・難関私立大学の合格者増
情報ビジネス科：インターンシップの活性化
教務部：進路意識高揚・悩みへの早期対応に向けた面談実施
- II 普通科：独自科目「論述演習」における高大連携及び外部講師の活用
英数科：自ら課題を設定し、情報の収集・整理・分析を行う
情報ビジネス科：地域連携事業（商品開発）

2. 先進的な教育課程の編成

～主体的・対話的な学びの充実を図る～
(基本的視点)

- I コミュニケーション能力の育成
- II ICTを活用した探究活動

(基本的方向)

- I ディスカッションやプレゼンテーションを通して、コミュニケーション能力を磨き、グローバル社会に対応できる資質の育成を図る。
- II 学びの全てが探究活動につながることを認識し、ICTを適切かつ実践的に活用し自らの学びを深める。

(8年度の主な取組)

- I グローバル教育研究委員会：
ネイティブ教員による「英語」「中国語会話」「韓国語会話」の授業
外国人をチューターとするグローバルスタディーズプログラムの実施
- II 教務部：ICTを活用した探究活動の情報収集と研究考察
探究活動の研究発表、校外コンクールへの応募

3. 未来を築く進路保証

～大学入試や就職試験に対応できる教育環境を整え、生徒たちの多様な進路を実現する～

(基本的視点)

- I 未知を追求できる確かな学力と自己決定力の育成
- II 多様な進路実現のための資格取得とキャリア教育の充実

(基本的方向)

- I 知識・技能の体系的習得と活用・体験的学びから、汎用的学力を修得し、生徒自らの成長実感を伴う、自身と社会のための進路選択を支援する。
- II 進学や就職に活用できる各種資格取得を強化するとともに、自己の将来に真摯に向き合い、自ら考え行動できる力を養う。

(8年度の主な取組)

- I 進学指導：年次に応じた計画的進路指導実践と進路実現に資する能力・資質開発
生徒・教員双方による学習と学力目標の共有、及び目標到達度の評価
- II 就職指導：商業や語学を含む各種資格取得対策の充実
応募前職場見学やインターンシップなど体験的学習への取り組み強化
外部講師を招いた「職業講話」「メタバース空間」を使ったオンライン企業説明会への参加

4. 三弧会・部活動のさらなる活性化

～主体性のある三弧会(生徒会)活動と、全国大会で活躍できる部活動を育成する～

(基本的視点)

- I 学校生活における生徒充実度の向上
- II 全国大会で活躍できる部活動の育成

(基本的方向)

- I 主体的な企画・運営により実施される活動を通して、生徒がより充実した学校生活を送れるようになる。
- II 強化指定部を中心として、全国大会で活躍できる指導体制をつくり、部活動強化を図る。

(8年度の主な取組)

- I 三弧会：クラスマッチ、体育祭、鹿高祭の企画・運営
SDGsなどの社会的課題への取り組み
- II 三弧会：強化指定部制度の充実
部活動顧問の指導力向上

5. 生徒募集の強化

～安定した入学者数を確保するために生徒募集活動を強化する～

(基本的視点)

- I 安定した専願入学者の確保
- II 高い受験率の実現に向けた入試制度改革

(基本的方向)

- I 明るい校風、3学科の特長、部活動の活躍、奨学金制度の充実などを広く県内外の中学生に伝え、安定した専願入学者数を確保する。
- II 新たな選抜方法を検討し、受験者数の増加、各分野で優秀な生徒の確保を目指す。

(8年度の主な取組)

- I 企画広報部：生徒募集活動の充実と強化、ホームページの刷新
Web 動画・各 SNS による広報活動の充実、早い年代への広報活動の
推進
- II 教務部：受験生・中学校へ向けた入試データの作成・提供方法の改善

6. 職員の資質・能力の向上

～研修制度を充実させ職員の資質・能力の向上を図る～

(基本的視点)

- I 高い教育力を有する教職員集団の醸成
- II ICT 活用指導力の向上

(基本的方向)

- I 教科教育力、生徒指導力、学級経営力、特別な配慮を必要とする生徒への対応など、職員に求められる資質の向上を図る。
- II 各教科・科目で ICT を活用した教育活動を推進し、ICT の強みや特性を生かした指導力の修得を図る。

(8年度の主な取組)

- I 教務部：初任者研修・経験者研修の実施
キャリアステージに応じた校外研修への参加
研修動画サイトを利用した研修
- II ICT 推進室：組織的な ICT 教育体制の整備
授業力向上を目指す研修実施

7. 安定した財政基盤の確立

～中長期的な学校財政基盤を強化する～

(基本的視点)

I 健全財政の維持・改善、学校教育予算の拡充

(基本的方向)

I 安定した入学者数の確保及び転退学者の削減により、健全財政を維持・改善し、学校教育予算の拡充を図る。

(8年度的主要な取組)

I 事務室：収入の安定確保と財政状況改善への取組み

以上 鹿児島高等学校

鹿児島修学館中学校・高等学校

【基本目標】

1. 魅力ある教育課程の編成

～新たな時代に対応した中高一貫教育を推進するために～

(基本的視点)

- I 6年間を見通した教育課程の編成
- II 国際バカロレア(IB)の教育プログラム(MYP)の導入

(基本的方向)

- I 中高一貫の長所を活かし、6か年の教育プログラムを作成し、実践する。
- II IBの教育理念を基盤に、MYPの教育プログラムを導入し、実践する。

(8年度の主な取組)

- I 中学1年から高校1年までのMYPと接続する高校2年・3年での独自のプログラムの具現化
- II IB校が学校ごとに作成する「プログラム開発計画」の実施によるMYPの質の向上

2. ワクワクする学びの充実

～これから求められる学びに向かう力の醸成を図るために～

(基本的視点)

- I 生徒が中心の学びの場
- II 探究学習の充実

(基本的方向)

- I ICT機器の活用を図り、主体的・対話的で深い学びを通して学ぶ意欲と学ぶ楽しさを育てる。
- II 生徒の興味関心を基に課題を発見させ、その課題解決に向けて取り組む力を育てる。

(8年度の主な取組)

- I 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業研究、ICTの活用
- II 学習の方法(ATLスキル)を意識した探究学習の実践

3. 主体的な生徒活動の展開

～これからの社会を生きる力を培うために～

(基本的視点)

- I 生徒会活動の活性化
- II 学校行事・ルールづくりへの参画及びCE活動の推進

(基本的方向)

- I 日常的な生徒会活動の活性化を図り、社会性の向上と協働・自治の態度を育てる。
- II 生徒による学校行事等への企画・運営を推進し、参画意識及び当事者意識を育てる。

(8年度の主な取組)

- I 代議員会、専門委員会の定例化、あいさつ運動などの生徒主体の活動
- II 体育祭・文化祭・生徒交流活動などの企画運営、ルールづくり、CE活動(清掃活動やボランティア活動等)の推進

4. 自らの夢実現と個性の伸長

～一人一人が満足する進路を実現するために～

(基本的視点)

- I 将来を見据えた進路設計
- II 自分の良さ、強みの伸長

(基本的方向)

- I 進路についての生徒理解を基に、情報提供・情報共有に努め、学校全体で生徒の進路実現を支援する。
- II 個々の興味関心を基に、自分の良さや強みに気づき、伸ばすことで自己肯定感を高める。

(8年度の主な取組)

- I 選択制朝課外及び火7・木7を活用した勉強会や進路イベントを通じた支援、外部人材活用による対話を中心としたイベントなどの実施
- II 各種資格取得やコンクールなどへの応募、英検・漢検対策などの実施

5. 教職員の資質向上

～今日的課題に対応する資質・能力の向上を図るために～

(基本的視点)

- I 校内研修の充実
- II キャリアステージに応じた研修

(基本的方向)

- I 時代の変化に対応した効率的な研修を計画し、研修内容の充実を図る。
- II 各種研修の機会を活かし、個々の専門性の向上を図るとともに、教職員としての自らの成長を促す。

(8年度の主な取組)

- I 定期的な校内研修の実施
- II 校外研修・個人研修への参加

6. 修学館の魅力発信

～効果的な広報活動を推進するために～

(基本的視点)

- I 効果的な広報活動の推進
- II 地域に愛される学校

(基本的方向)

- I 満足度の高いイベント等を実施するとともに、本校の特色を発信し、本校への関心を高める。
- II 町内会との連携を図るとともに、ボランティア活動等を通して地域や社会に貢献する態度を育てる。

(8年度の主な取組)

- I 来校者満足度の高いイベントの開催、塾・学校訪問の実施、HPの充実、SNSの効果的な活用
- II ユネスコスクールとしての活動及びボランティア活動等の実践

7. 安定した財政基盤の確立

～将来的な財政の健全性を維持していくために～

(基本的視点)

- I 財政の健全化

(基本的方向)

- I 定員の継続的な充足と経費節減を進めることで、健全な財政の維持を図る。

(8年度の主な取組)

- I 上記全事業の実施による財政状況改善への取組
経費節減に向けて本館1・2階フロアのLED改修

以上 鹿児島修学館中学校・高等学校

鹿児島幼稚園

【基本目標】

1. 心の豊かさとたくましさを育む幼稚園

(基本的視点)

- I 体験活動の充実
- II 人権感覚を育む保育
- III 体力及び健康意識を向上させる保育

(基本的方向)

- I ① 恵まれた自然環境を生かした保育
② 伝統的な文化や風習を取り入れた保育
- II ① Mom の精神に基づく保育の実践
② なかよしクラスの活動の工夫
- III ① 遊びや行事を通して体力向上
② うがい・手洗い・歯磨きの習慣化及び食育の推進

(8年度の主な取組)

- I ① グラウンドの計画的な活用
② 年間計画に基づく栽培活動
- II ① 日々の保育での実践、研修、園長指導
② 毎月2回実施(5～12月)
- III ① 学級の実態に応じた重点の設定、実践
② 家庭との連携

2. 元気で明るくのびのびと生活する力(資質・能力)を伸ばす幼稚園

(基本的視点)

- I 自己肯定感を高める保育
- II 社会性を伸ばす保育
- III 実行機能を高める保育

(基本的方向)

- I ① 幼児の良さや取組の価値を自覚させる言葉かけや振り返りの実践
② お互いのよさを伝え合う活動の推進
③ 問題解決的な活動の工夫・推進
- II ① 問題解決的な活動の工夫・推進
② 役に立つ喜びを味わう活動の工夫
③ 規範意識を高める保育の充実
- III ① 基本的生活習慣の確立
② 手順を考えたり見直したりする過程がある活動の工夫

(8年度の主な取組)

- ① 学年会で実施状況、実施方法を確
- ② 職員、保護者へ効果についてアンケートを実施

3. 信頼され、選ばれる幼稚園

(基本的視点)

- I 園児獲得対策及び子育て支援の充実
- II 家庭との連携充実
- III 大学附属幼稚園であることの強みを生かす

(基本的方向)

- I ① 年少少、年少の募集の強化
② 保護者のニーズを踏まえたお預かり時間や受入人数の設定
- II ① 園活動に対する保護者からの評価
② 幼児の様子を伝え合う日常的なコミュニケーション
- III 大学附属幼稚園であることの強みを生かす
① 教育実習や学生ボランティアの活用による資質向上・後継者育成
② 大学の人材を活用した職員研修による資質向上
③ 大学附属であることの良さの広報

(8年度の主な取組)

- I ① インスタグラムで情報発信、園バスやフェンスへの広告掲示、保護者の声を活用した広報
② ベビークラブ、ちびっこクラブ、入園・教育相談
③ アンケートによるニーズ把握、アンケート結果に基づく広報
- II ① アンケートの実施と結果の公表
② 登園・降園時の積極的な声掛け
- III ① 実習を通じた職員の資質向上
② 大学職員の講師招聘
③ 大学と連携した取組の広報

4. 安心・安全な幼稚園

(基本的視点)

- I 安心・安全な施設・設備等の環境づくり
- II 安全意識を高める保育の充実
- III 危機管理・危機対応力を高めた職員の育成

(基本的方向)

- I ① 定期的安全点検の実施と修繕等の迅速な処理
② 薬剤師と連携した衛生環境の充実
- II ① 安心・安全の視点を取り入れた保育計画の作成・実施
② 防災・防犯訓練計画の改善

- Ⅲ ① 防災・防犯訓練計画の改善
- ② 危機管理マニュアル及びBCPの周知・見直し
- ③ 終礼での事故・トラブル等の情報の共有と記録

(8年度の主な取組)

- I ① 毎月の安全点検
- ② 学期ごとの環境衛生検査・評価と改善
- Ⅱ ① 年間計画に沿って実施・改善
- ② 安全意識の向上に関するアンケート調査
- Ⅲ ① マニュアルの評価、改善
- ② 終礼の週3回実施

5. 働きやすい幼稚園

(基本的視点)

- I 使命感の醸成
- Ⅱ 業務量の適正化
- Ⅲ コミュニケーションが充実しているチームづくり

(基本的方向)

- I 職員会議での指導
- Ⅱ ① 業務効率化委員会の定期的開催
- ② 退勤時刻、定時退勤日の設定
- Ⅲ 学年会の充実・職員研修

(8年度の主な取組)

- I 保育活動への所感発表、園長指導
- Ⅱ ① 業務効率化委員会の定期的開催
- ② 退勤時刻(19時)、定時退勤日(18時)の実態把握・指導
- Ⅲ 学年会(毎週)、職員研修(年1回)、アンケート年2回

6. 健全な財政基盤の確立を図る幼稚園

(基本的視点)

- I 少子化に対応した適正規模や新体制の研究
- Ⅱ 経費節減

(基本的方向)

- I ① 幼児の人口の推移に基づく適正規模の検討
- ② 施設型給付または認定こども園への移行の検討
- Ⅱ ① 業務の効率化による経費節減効果の検証
- ② 光熱費節約、設備・備品の維持・管理の徹底

(8 年度の主な取組)

- I ① 今後の園児定員の検討・確定(5 月)
- ② 他園の取組状況について情報収集(1 学期)
- ③ 令和 9 年度に体制を移行することを目途に研究
- II ① ペーパーレス、行事等の削減による経費節減効果をデータ化
- ② 年度初め経費節減方針の提示、評価、改善案の提示

以上 鹿児島幼稚園